

MATH やらまいかジャーナル



A Journal of MATH yaramaika

令和4年度(2022年度)12月 開催

「MATH やらまいか第10回記念決勝大会」

活動レポート



トップガン教育システム協議会が主催する「MATH やらまいか第10回記念決勝大会」は、令和4年12月10日(土)13時00分～15時40分の日程で、浜松科学館みらい～ら1階ホールにて開催されました。

「MATH やらまいか」は小学1年生から6年生の児童が「算数」のゲームを通してよく見る力・よく聞く力・よく考える力(着眼・推理・分析・思考力)を養いながら、速さと思考力を競う大会であり、2013年の創設以来、今年で10回目の開催となります。本年度、令和4年10月1日(土)～令和4年10月31日(月)にかけて、インターネット上で行われた予選大会には511人が参加し、得点上位30名の小学生が決勝大会に進出、会場へと足を運びました。

「MATH やらまいか」の目的は、算数の本当の面白さを児童に伝えることにあります。算数や数学の面白さ・重要さは「考える

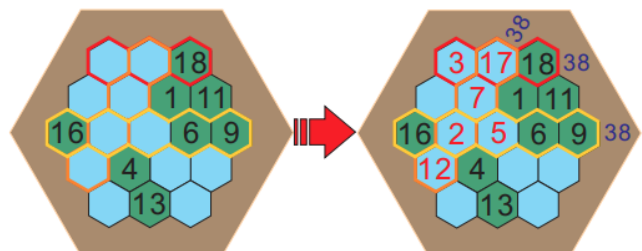
こと」にあります。小学校で通常行われている授業やテストでは、思考の過程に関わらず、答えが合っていなければ「算数が出来ない」ということになってしまいます。「MATH やらまいか」では、ゲームを通して「問題についてとことん考える」機会を与えることによって、算数の本当の面白さを伝えるきっかけづくりを行っています。

また、大会を通して発掘された優れた算数・数学の才能を持つ児童に対しては、優れた才能をさらに伸ばし、将来的に数学オリンピックに挑戦すること等を視野に入れた、長期的な指導も行っております。

○予選大会について○

本年度の予選大会は、「ヘキサゴンに橋を架けよ!」という題で、魔六角陣を使った数字とかたちのパズルを行いました(ゲームの概要は右図。詳細なルール等については、ホームページ(<https://math-yaramaika.com/>)上で確認することができます)。最高得点は16,840点。予選期間を経過した現在もホームページ上にて予選問題を公開しております。いつでも・誰でも挑戦することが可能です。予選大会には浜松市内の小学生(360人)だけでなく、浜松市外の小学生(41人)、また、中学生や大人の方(100人)も挑戦し、点数を競い合っていました。

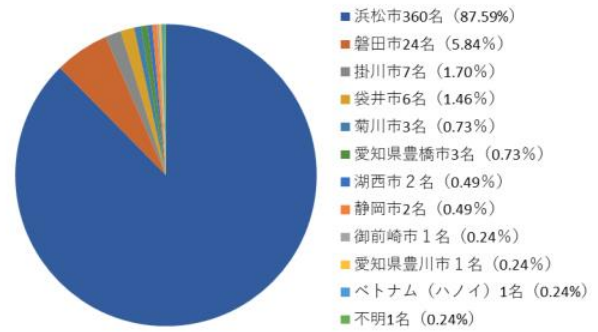
・ヘキサゴンに3本の橋を架け、数字を入れて完成させるゲーム



○決勝大会について○

決勝大会への出場者 30 名の地域の内訳は浜松市 28 名、静岡市 1 名、磐田市 1 名でした。

今回は第 10 回の記念大会ということで、トップガン教育システム協議会会長 木村雅和先生による恒例の激励挨拶に続く記念企画として、第 1 回大会入賞者からのビデオメッセージが上映されました。第 1 回大会で 3 位に入賞した鈴木直弥さんは静岡大学工学部電子物質科学科に進学されており、今大会にも（本人の強い希望により）なんとスタッフとして参加されておりました。そこで大会当日には、急遽、肉声での応援メッセージをいただくこととなりました。決勝大会参加者の皆さんも、強く励まされたことと思います。



第 10 回予選大会への地区別参加状況



トップガン教育システム協議会 会長
木村雅和先生より恒例の激励挨拶



第 1 回大会優勝者 佐藤 航さんからの
ビデオメッセージ上映の様子



同 第 2 位 山本 康誠さん



同 第 3 位 鈴木直弥さんと耳を傾ける児童

当日は、新型コロナウイルスの社会的状況を鑑みた付添人数の制限を行いました。令和元年度以来3年振りに、浜松市 鈴木康友市長が名誉団長を務める「ジュニアオーケストラ浜松」にお越しいただくことができました。市長による主賓祝辞に続いて、弦楽二重奏による「私のお気に入り」と「2つのヴァイオリンのための協奏曲 第3番 第3楽章」のご演奏を披露いただき、参加者の皆さんも束の間の緊張を忘れ聞き惚れているようでした。

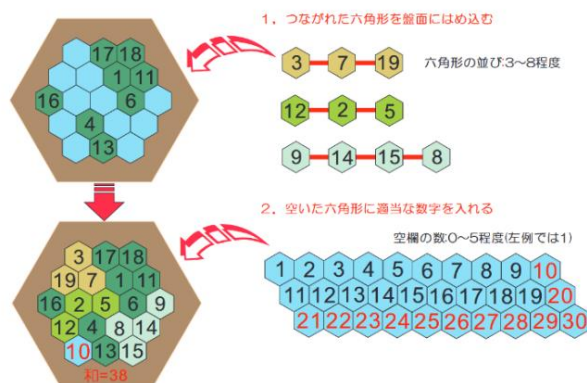


浜松市 鈴木 康友市長による主賓祝辞



ジュニアオーケストラ浜松による演奏

決勝問題は、予選問題にさらに条件を加えて、魔六角陣を完成させる問題でした（概要は右図）。問題は全部で12問。難しい問題を、ヒントを使わずに、早く解くことができれば高得点となります。参加者の皆さんはタブレット端末に向かって、1時間、競技に取り組むこととなります。



<決勝大会の要項>

- 日 時 : 令和4年12月10日(土) 13時00分~15時40分
- 会 場 : 浜松科学館みらい~ら1階ホール
- 人 数 : 30名(保護者同伴)
- 対 象 : 予選ランキング上位者のうち、当日参加可能な小学生。
ただし、浜松市外の小学生については、予選ランキング30位以内、かつ、最大10名までを対象とします。
- 参加料 : 無料
- 主 催 : トップガン教育システム協議会
(協議会構成員: 静岡県・浜松市・浜松商工会議所・浜松市教育委員会・株式会社乃村工藝社株式会社SBSプロモーション共同事業体・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構・)

浜松医科大学・光産業創成大学院大学・静岡大学・
浜松いわた信用金庫・ヤマハ株式会社・静岡銀行)

- 共 催 : 浜松市、静岡大学、浜松医科大学、浜松科学館みらい〜ら
- 後 援 : 浜松市教育委員会、湖西市教育委員会、磐田市教育委員会、
袋井市教育委員会、森町教育委員会、掛川市教育委員会、菊川市教育委員会、
御前崎市教育委員会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送
- 協 賛 : 株式会社CAIメディア、浜松いわた信用金庫、須山建設株式会社、
丸八不動産株式会社、株式会社ソミック石川、株式会社第一印刷、
株式会社丸八、株式会社ヤマザキ、株式会社アースス、
日研フード株式会社、やまと興業株式会社、ヤマハ株式会社、
静岡銀行、浜松委托倉庫株式会社、日管株式会社

○決勝大会のようす○

決勝問題には、静岡大学 川田善正先生、浜松医科大学 山本清二先生による両大学合同副学長チームも挑戦し、大会を盛り上げました。会場では、全員の得点と順位がリアルタイムで映し出され、後ろで見守る保護者の皆さんもドキドキしながら応援します。



懸命に競技に取り組む児童

○表彰式について○

今年度は、決勝大会入賞者の表彰に先立って、6年連続出場者の今野朝日さん（浜松市立大平台小）と、5年連続出場者の中村幸太郎さん、大石康介さん（いずれも静岡大学教育学部附属浜松小）の表彰が行われました（中村幸太郎さんは欠席）。また、第10回記念企画の第2弾として、今年度は10年間に渡り問題を作り続けてきた静岡大学工学部教授 藤間信久先生の表彰も行い、今後も面白い問題を作り続けていただけるよう、氏を激励しました。



懸命に競技に取り組む大人



6年連続出場者 今野朝日さん



5年連続出場者 大石康介さん



第10回記念顕彰を受け取る藤間先生(右)

総評と閉会の言葉

皆さんこんにちは、浜松医科大学の理事・副学長の山本清二と申します。MATH やらまいかの戦いの総評を述べる前に、今日は第10回の記念大会ということもあり、最初に表彰もありましたので、まずはその人たちに、心の底からお祝いを述べたいと思います。10年間続いたイベントの中で6年連続出場のVIP賞、今野朝日くん、すごいですね、素晴らしいですよ。まずここでみんな拍手を送ってください。

それから5年連続出場のmVP賞、中村幸太郎くん和大石康介くん、この二人にまた拍手を送ってください。また、藤間先生、おめでとうございます。盛大な拍手を送ってくださ

○大会の結果について○

記念表彰に引き続き、いよいよ決勝大会の入賞者が発表されます。第10回大会第3位は磐田市立長野5年 鳴瀬多朗さん(写真中央)、第2位は静岡大学教育学部附属浜松小6年 大石康介さん(写真左)、そして優勝は、浜松市立伎倍小5年 五日市蓮斗さん(写真右)です。入賞者には、木村雅和先生から、メダルと表彰状が授与されました。皆さん、本当におめでとうございます。



第10回決勝大会優勝者記念撮影

い。これからも問題をお願いします。

戦いの後、三人が表彰されました。順位付けってなかなか残酷ですね。これはみんな、順位も付いてないようなものだと僕らは思いますけれども、三位が鳴瀬多朗くん、二位が大石康介くん、一位が五日市蓮斗くん、トップガンのトップですね。三人に、盛大な拍手をお願いします。

今日ここへ来た人たちは、511人の中のトップ30なんですよ。30人として、ここに選ばれて来ているわけですね。それが「すごい」と僕は思います。今日、一生懸命頑張ったぜっていう人、手を挙げてくれますか……はい、ありがとうございます……それから、ちょっとくやしなって人手を挙げてもらえます？……それ、大事ですね。悔しいなってそういう気持ち、大事です。ありがとう。でも、最後ですね、楽しかったって手を挙げてくれる？……はい、ありがとうございます。



今日ですね、本当に一生懸命やった成果が若干の差があって順位が違う。これはあり得ることですよ。そのことを誰も何もいいません。まず僕は、17倍の難関を突破して、30人の中のひとりとして、この栄えある場所で、決勝大会に出られたってということに対して、心からお祝い申し上げます。そのことが、もう今日のすべてだと、僕は思います。



それに関して、一生懸命応援をしてくださった、お父さん、お母さん、お家の方々、本当にありがとうございます。お家へ帰ったら子どもさんのこと褒めてあげてください。本当に一生懸命やった成果だし、一生懸命やるのが目の前にあるということは、非常に「すごい」ことです。この子たちは、本当に「すごい」人たちですよ。

なんでこんなに「すごい」って言えるかっていうことですね、私も一緒に問題をやっていて、全然できなかったからです。そう、実際にやってみると非常に難しい。それから、集中してやらなければいけない。これが非常に大事なことで、それを見ていると、あまり大変そうじゃなくこなしてしまうというところに、僕は「すごい」ポテンシャル/パワーを感じます。

我々ぐらいの歳になるとですね、最初は集中力があるんですけども、だんだん疲れてきて、これはあんまり問題が良くないかもしれないとか、いろんなこと考えてしまうわけです。そういう雑念に決してとらわれることなく、集中して1時間問題が解ける、これも素晴らしいことです。

私が最も言いたいことは、皆さんは自分がやりたいと思ったこと、一生懸命やったこと、それをやり終えたんだということです。その「達成感」というのが非常に大事で、ここへ

来ている30人が「すごい」って言ったのは、決勝に進出した時の「やったぜ」っていう気持ちが、みんな心の底に残っていると思うからなんです。その気持ちを大事にして、これからも「やったぜ」という、達成感に満ち溢れたその喜びを味わえるよう、自分がやりたいと思うこと、やってみたいと思うこと、それに常にチャレンジしてください。そうすると、サッカーじゃないですけど「ブラボー」って言葉が飛んできます。今日、決勝大会に出たっていうのは、その第一歩だと、僕は思います。このようなことは、一生のうち何回起こるか分かりませんし、大きさも場合によって違います。でも、やったことは、自分たちのものとして必ず残ります。だからこれからも、一生懸命頑張ってください。



この大会の運営にあたって、多くの方々のご尽力くださいました。木村先生始めトップガンの関係者の方々、本当にありがとうございます。それから今日会場に来られているお父さん、お母さん、お家の方々、ありがとうございます。そして何より、このトップガンのコンテストに、MATHやらまいかに参加をしてくれて、今日決勝大会に来てくれたみんな、本当にありがとうございます。これで、私の閉会の言葉に代えさせていただきます。お疲れさまでした、ありがとうございます。

この大会の運営にあたって、多くの方々のご尽力くださいました。木村先生始めトップガンの関係者の方々、本当にありがとうございます。それから今日会場に来られているお父さん、お母さん、お家の方々、ありがとうございます。そして何より、このトップガンのコンテストに、MATHやらまいかに参加をしてくれて、今日決勝大会に来てくれたみんな、本当にありがとうございます。これで、私の閉会の言葉に代えさせていただきます。お疲れさまでした、ありがとうございます。

浜松医科大学 理事・副学長 山本 清二先生

優勝した五日市さん 感想

ぼくは、学校で配られたチラシを見て、4年生の時に初めてMATHやらまいかに挑戦しました。初めて予選の問題を見たときは、とてもワクワクしたことを覚えています。

本選の問題は予選よりもさらに難しく、もっと解きたい、という気持ちでいっぱいで一時間があっという間でした。順位が分かったとき、僅差で4位だったので、悔しくて泣いてしまいました。

5年生の今年は、去年の経験から、ヒントを使いすぎずに高得点をねらっていかうと思って解きました。2回目で雰囲気も分かっていたので、緊張もほとんどなく楽しめました。全問解けなくて悔しかったけれど、作戦どおり優勝できたので良かったです。

MATHやらまいかは、予選の問題から本選の問題が進化していくところがとても面白いです。もっとたくさんの小学生にこの大会を知ってもらって、みんなで挑戦して欲しいと思います。

浜松市立伎倍小学校5年 五日市 蓮斗